

世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農機実用テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農機の最新情報

Tyre costs in the limelight オーストラリア

注目を浴びるタイヤのコスト



合成ゴムのリーディングメーカーであるランクス社がシンガポールに575万ドルを投じて新しいプチルゴム製造工場を建設すると発表したことで、タイヤに注目が集まっている。

タイヤに対する強い需要は急速な経済成長を遂げる中国やインドなどによって加速しているとベアースタイヤ社の代表取締役であるブラッド・ベアーマン氏は説く。中国によるアジア圏内の多くのゴム製造工場の買収を受け、ベアーマン氏が懸念しているのはタイヤの価格も世界中の鉄鋼業界が経験してきている価格上昇の憂き目に遭うことだという。実際、タイヤが近く大幅に値上げされても別に驚くことではないとする。また、ここも続ける。

「タイヤの製造に向けられるゴムや石油、鉄鋼の量はばく大なものになっており、このような需要を受けて、タイヤの価格は非常に高くなる可能性がある。それによって多くの車両関連メーカーや大型機械のオーナーが有名なブランドに対する支出を見直して中国製のノンブランド製品を選ぶことになるだろう。一方、アジアでの需要は現在、全世界のタイヤ業界を直撃しており、非常に多くのユーザー、特に相当量のタイヤを使用する関係先は、これまで使い捨てだった製品がなぜ突如として自社の事業運営にとって経済的に深刻な問題になるのか考えたこともなかっただろう」

興味深いことに、ベアースタイヤ社はタイヤのライフサイクル管理システムであるタイヤ・トラッカー・システムを開発しており、このシステムでは各ユニットの寿命を延ばすという観点から個別のタイヤと車軸が移動した距離を記録として残している。

「タイヤ・トラッカーは車両関連メーカーに対して、これまでの会社も有していなかった機能を提供しており、それはすべてのタイヤから潜在的なムダを完全に取り除くことができる「コントロール機能である」とベアーマン氏は言う。

この技術は、ブランドに中立なベアースタイヤ社の社内部署により開発、提供されている。製品寿命の強化だけでなく、それぞれのタイヤに関して非常に正確なコスト計算を提供することも知られている。

High-horse Fendts head to US 米国

高馬力のフェントが米国へ



米国のAg Connect Expo 2011で発表された新しいフェント社の800系高馬力トラクタは馬力と燃費が向上し、多くのオプション部品が装着できるとされている（写真参照）。

フェントブランドの販売経験が長いアブナー・ワイドマン氏は、オントリオ州のマウント・フォレストにあるメーブルレーン・ファームサービス社のパートナーであり、同社のフェントトラクタの販売は11年目を迎える。ワイドマン氏はフェント製品はよく作り込まれていると言いつつ、北米でフェントブランドがどう受け入れられているのかとの問いに対してこうコメントした。

「世界はますます小さくなっている。この地域で1500エーカーから数千エーカー規模で営農している当社の顧客は信頼性を求めている。顧客はフェントがヨーロッパの高品質トラクタの一つであるとみており、まるでフェントが近所の農家から運ばれてきたかのように製品の推薦を受け入れている」

要約すると、米国とカナダで販売されるフェント800系トラクタは200〜280馬力までの新たな5機種があり、それぞれに6・06ℓのドイツ製4バルブ6気筒エンジンを搭載している。間違いなくこのトラクタの際立った特徴となっている選択触媒還元法（SCR）を用いたStage III/IV

エンジンは、ドイツのDLG（ドイツ農業協会）テストセンターで実施されたDowlexテスト（280馬力の828型モデル）でキロワット時当たりわずか245gの燃費を実現した。これらのテストでフェントの828型パリオトラクタは業界平均より約19%高い効率性があると計算された。



オプションで回転操縦席が機能に加わり、特に米国で注目を集めている。



Deere importer switches allegiance to Landini and McCormick
オランダ

ディアからランディーニとマコーミックに転向



かつてオランダにおけるジョンディア社の輸入販売会社だった、ルイス・ネイゲル社はベルギー、ルクセンブルグ、オランダでランディーニ/マコーミックの輸入販売会社となった。これらのブランドはともに従来は Mechan Group の子会社である Vormec の傘下にあり、Mechan Group は同時にグループ内で他社製品の輸入を行なう会社を有しており、フェント (De Vorst)、マッセイ・ファーガソン (MechaTraco 社)、バルトラ (AgriTech 社) 製品を輸入している。ディアに関しては、この米国の巨大企業は現在、同社のスプレーヤ工場の拠点でもあるホルスト村にトラクタの子会社を持っている。

輸入会社を通じた販売方法から自社の事業部門で運営する方法へのディアの方針転換は主要な物流組織の再編の一環として実施された。25の主要な農業部門ディーラーを有していた当時から、現在では8社のみが残った。これら8つのディア・ディーラーも他のディア・ディーラーを買収するか、合併会社を設立するかのどちらかを選択しなければならなかった。これが不可能な場合は、サブディーラーはディアのフランチャイズ権を失い、メインディーラーは当該地域での新たなサポート拠点を見つけなければならなかった。結果として、大きなディア・ディーラーのいくつか

(ベースト所在の Van der Pijck 社、オースターレンド所在の Bos 社) はすでにディアを離れてクラース社へ向かった。ディアが現在オランダで実施しているディーラー・モデルはその他多くの国で同様なビジネス再編が行なわれる始まりであると多くの関係者はみている。



ルイス・ネイゲルはランディーニおよびマコーミック製品の新しいオランダにおける輸入販売会社である。

No-till planting for small-scale farmers
南アフリカ

小規模農家向けの不耕起栽培



西ケープ州ピケットバーグにあるカレル・ヴァン・ニーカーク氏の会社である、ピケット・インプレメンツ社は地域事情に適した農業機械を開発することで知られており、今回、不耕起栽培用のツールを製品ラインアップに加えた。南アフリカで不耕起栽培システムを利用した栽培は増加しており、小規模農家はこの技術を採用することで実現できるコスト削減効果を認め始めている。

フリーステイト州ポータビルで開かれる今年のナンポ・ファーム・ショーでピケット社は家畜けん引式の1条播種機を公開した。これは、大きなトラクタがけん引する播種機が持つ機能をすべて有しながらも役牛を主体としたチームで操作が可能である。構造に関しては、ホッパーが3つ設置しており、それぞれ肥料、細かい種子、トウモロコシなどの大きい種子用となっている。ピケット播種機の計測装置はチェーンで作動する。



ハンドルは作業者の高さに合わせて調節が可能。細かい種子用のホッパーはオーツ麦、小麦、またはマメ科被覆植物用に使用される。



前部に設置された16mm幅のすき用の刃が最小限度でかく押し、アフリカの不耕起栽培に不可欠な水のろ過機能を向上させる。28mm幅の靴型をした播き溝を作る部分は最適な播種作業用に調節が可能になっている。